

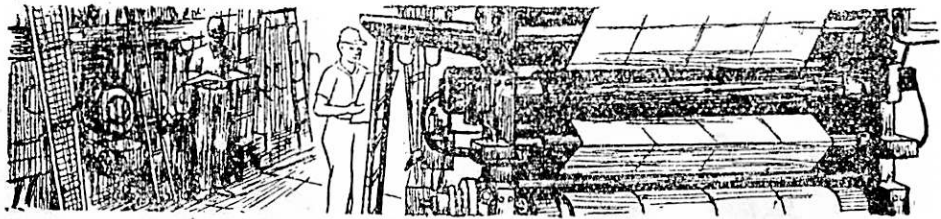
# 職業と教育

職業教育研究会編集

## 第一號 目次

創刊號に寄す……………	池田 種生 (2)
職業科指導の手引……………	赤石 清人 (3)
何を調査すべきか……………	高薄 重夫 (7)
職業実習の意義と方法……………	雨宮 茂 (9)
入社試験風景……………	木原三千夫 (12)
どちらが血か肉か……………	(13)
編集だより……………	(14)
職業教育研究会規約……………	(14)
職業科文庫……………	(16)

①



## 「職業と教育」創刊號に寄す

日本の長い間の封建的倫理を基底とした教育が、觀念の遊戯をくり返すことによつて、わが國の反動勢力に寄與した害悪は、実に図り知れないものがあつた。教育者がいかに眞面目に眞劍であつても、そうであればあるほど、それは一個のカリカチュアでしかなかつた。針でついた程のリアルも、それが發展すれば、忽ちその芽はつみとられたのであつた。学校というせまい箱の中で、その日ぐらしの安全を保有することだけが、教育者の生きる道であり、それだけの教育の力でしかなかつた。

ということ、過去の教育は、驕に祈る如く、骨のズイまで味わされているにもかかわらず、それを知つてか知らずにか、終戦後解放さるべき教育が、依然そのくりかえしであつたとしたら、これほど嘆わしいことはあるまい。お題目がかわり、コア・カルキエラムが流行したとしても、日本の現実から遊離した学校觀念のくりかえしに終るなら、教育とそして教育者とその教え子たちは、再び新しい反動のエジキとなり、その病毒の傳ば者にすぎない結果になるであらう。

日本の現実はどうか、産業は、政治は、そして社会は？ 官僚どもとその一党が作つた、まことしやかな理論やモデルスクールは、箱庭にうえられた毒草にすぎない。今後の日本の教育の吸う健康なる滋養物は、各職場にあり、汗みどろになつて、働く人たちの産業復興のつちの音に、肥にまみれる貧しい農民の香に、そしてペンをとりソロバンを握る事務室に、知識を生活の糧とする知的労働者に。

新しい社会に働く希望の学徒を思う時、これこそが、眞に教育の基底でなくてはならぬ管である。

教室の中の社会科や、何とかプラン、何とかカルキエラムは、風車の如く、にぎやかな音を立てる、からまわりにしかすぎないであらう。この時にこそ、あらゆる職場に立つ、新しい職業の教育が必要とされるのである。教育は勇敢に、過去の形態から脱皮されなくてはならぬ。

この時、職業教育研究会が、働く職場の人たちと教育実家が腕を組んで、全五十巻にわたる「職業科文庫」の刊行を企て、ここにまた、本誌の創刊を見たことは、何百万と称される失業群が生れようとする、無氣味な暗雲の中に、産産をあげた、新しい教育の一つの方向を示すものとして注目される。それだけではない、少しく大げさないうならば、日本の大地に育ち、日本人の手によつて、再建せんとする教育の一つの扉が今開かれようとしているのである。目ざめた教師の手により、その協力によつて、第二、第三の扉が開かれんことを、私はねがつてやまないのである。

(中央教育復興会議常任幹事

池田種生)



# 職業科指導の手引

赤石清人

## 一、職業科の目標

中学校で、三年生の父兄を三学期に集めたばあい、一番問題になるのは、卒業生の就職と進学のことである。その中でも就職の問題は、中学校の卒業生の約八〇%が就職を希望している現在、最も大きい問題であるといえる。

この問題を解決することのできる学科は、現在では職業科以外にはない。したがって、職業科は、生徒が卒業するまでに、夫々の個性に應じて、最も適当な進路を選ぶことができるように指導することを中心目標としなければならない。社会に必要な職業の理解も、職業を営むための基礎的な知識や技能を修得することも、勤労に対する態度を身につけることも、みな進路を決定する能力を修得する目標に向つてなされなければならない。

## 二、職業科への入り方

職業科は中学校の生徒に取つては初めての学科である。また職業を選択するには、職業についての理解が第一になされなければならないことも当然のことである。しかしだからといって、職業科に入

るのに「職業とは何ぞや」式に入るのは、生徒の興味を引かない最もへたな入り方である。生徒の「希望職業」の調査から入るのは有効な入り方の一つである。

この場合教師は生徒に対して職業についての予備知識などには全然ふれないで「みなさんは將來どんな職業につきたいか、思つたまゝを書いて下さい」と言つたように調査したいものである。

その結果、生徒の立場立場によつていろいろな希望職業が表われてくるであろう。その希望職業を中心に「話し合い」を開けば、職業科のすゝめ方について、生き／＼した方向が自然と発見されるのである。この「話し合い」の中で、教師は、職業を選択することは軽々しくすべきでないこと、職業選択のためには各種の職業を知らなければならぬこと、卒業するまでには職業選択が出来るよう職業科の勉強をしようなどいゝ問題が出てくるように指導すべきである。

## 三、まわりの職業しらべ

希望職業を中心とした「話し合い」から、生徒の身近かな職業しらべに取りかゝるのは自然なすゝみ方であろう。この場合必ずしな

ければならない職業しらべに次の三つがある。それは、(1)生徒各目の家庭の職業、(2)生徒の通学区域内(町、村)の職業分布、(3)自分の学校の卒業生の少くとも過去三カ年の就職先の調査である。

この職業しらべを行う場合には二つの意味を持たせる必要がある。第一は生徒のまわりの職業情勢を知らせること、第二は職業分類の概要を知らせることである。しかしこれは教師が特に説明するまでもなく、生徒が調べている間に自ら明かになつてくることである。

職業しらべに取りかゝるには、その方法、内容などについて前もつて十分相談しておく必要がある。こゝに一つの例を示すと、生徒の家庭の職業は生徒に各自紙片に書かしても出来るが、通学区域内の職業分布は、先ず村(町)役場に出かけて國勢調査の結果をもとにしてしらべ初めるのが能率的であろう。卒業生の就職先しらべは、一軒一軒実際に當つてしらべるよりほかに方法は無いであらう。これらは生徒を幾班かに分けてやれば、案外短期間に出来るものである。

職業しらべの職業の分類法は、総理廳統計局の職業分類表によつて行われる必要がある。そして出来たら中分類までしらべたいものである。

以上のしらべは五月初旬頃までに、結果がグラフと職業分布図になつて教室にはられるようにしたい。

#### 四、職 場 調 査

職業しらべによつて、職業情勢と職業分類について大體の概念が得られたと思うから、次には職業の内容調査に取りかからねばなら

ない。これは五月中旬頃から始められるだろう。調査場所は最寄りのどこでもよいが、最初のことであるから、駅とか、郵便局とか、町工場とか、あまり労働者の多くない場所がよいだろう。この場合も、調査に行く人の数、その責任者、調査項目、調査方法、調査後の処理などについて、十分に話し合をしておかなければならない。調査項目について職業科としてぜひ入れなければならぬものは次の十項目である。即ち、1、従業員数、2、職種と作業内容、3、その職種に適する身体と性格、4、労働条件、5、収入、6、職業病と災害、7、採用条件、8、昇進と停年制、9、福利厚生施設、10、労働組合等である。

調査後は謄寫印刷にして全生徒に配り、それを中心として話し合をする。またこの謄寫印刷を三カ年続けて綴つておけば、貴重な職業研究の資料ともなるのである。

#### 五、實 習 に つ い て

新制中学校の職業科は、進路選択の能力をつける学科であることは前に述べた。進路選択の能力を修得するには、職業を理解するだけでは不十分である。実際に職業をやつて見て、その職業が生徒に適するか否かと決めなければならない。このやつてみる過程即ち試行過程が実習である。従つて若し実習を行わないで職業科の指導をしたとしたら、それは凡そ無意味な指導である。

職業の実習と言つても三万種類もある職業を全部やつて見るわけにはいかない。それで代表的であり、要素となる六種類、1、農耕飼育関係、2、電気機械関係、3、製図関係、4、事務的關係、5、手技的關係、6、家庭的關係に分け、これを適当に組合して行うこ

とになつてゐる。更にこれを校内実習、校外実習、職場実習に分け、校内校外実習は、授業時間中に、職場実習は休暇を利用して行うことである。

実習を行う場合に二つの大切な原則がある。即ち、生徒の実生活に即すること、実用的であることである。製図を単に製図として教え、簿記を昔の高等学校で教えたように、生徒の生活から浮き離れて教えたのでは、生徒の興味を引かないし、効果も上らないであらう。前に述べた職業しらべの結果を発表する場合に、グラフの作り方、標題の書き方などに十分製図の初歩の指導が出来る。又職場調査の発表の場合には謄寫印刷の実習を併せて行うことが出来る。又学校購買部を經營する場合、バザーを開く場合、生徒の生活に即した生きた簿記の実習が出来るのである。学期末に各教室をまわつて、机や腰掛の修繕をすることなどは、立派な木工の実習である。

これらの実習の何をいつやるか、又各実習の標價の基準をどこにおくかなどについては各学校によつて異なるべきものであるが、一年間の実習計画は学年始めに立て、おくべきであらう。尙職場実習は二年生になつてから始めるのが適當であらう。

実習については、職業科の実習は試行過程であるから生徒にローズを作らせることだと言う者もいるが、このような考え方は日本の現状を認めない者の暴論で、実習によつて生徒の作る製作品はどんな品物でも、あくまで使えるもの、役に立つもの、学校の經濟情態で許される範囲のものであるということを目標とすべきである。尙この実習を生産と結びつけるように工夫したなら、中学校の經濟的經營難の解決に幾分なりとも希望を持たせるものとならう。

## 六、教科書の取扱について

職業科の教科書は一の項目に述べた目標に即して編集されなければならぬのは当然のことである。即ち教科書を取り扱うことによつて、職業調査も出来、調査後の整理も出来、実習も出来るようになつていなければならない。またこの教科書は生徒の心理の発達段階も考えていて、以上のようなことを興味を以つてすることが出来るように編集する必要がある。その教科書によつて勉強していけば、三年の後には、生徒は知らず知らずのうちに、自分の個性に適した進路の選択が出来るようになるであらう。

しかし現行の職業科教科書には、そうしたものは一冊もない。特に文部省発行の農業教科書は、編集目標が農業につく者を対象とした教科書であるので、職業科教科書としては最も不適当である。又職業指導協会編の職業指導は目標はよいが、各産業の目標の取り方に疑点があり、内容が難解な上に、実習には全然ふれていない点、致命的な欠陥である。従つて現行の教科書はただ参考書として取扱う以外取柄がないものであるが、参考書として取扱う場合も、第二三、四、五の各項で述べた作業を先ず行い、職業科に対する生徒の心構えが出来た後に初めて教科書に取りかゝるべきであらう。

以上に述べた目標に適した教科書も一部は既に檢定済みになつて廿五年度から發行される段取りになつていと聞いている。又將來現場の教師の努力によつてよりよい教科書がどしどし出るようになるであらう。然したとえどんなによい教科書が出たとしても、職業科の教科書はその性質から、各種の職業を理解させることがその主要な部分となること、と思う。そのため、都会の子供に鉱山の労働者

の生活を知らせる場合や、農村の生徒に都市の勤労者の生活を知らせる場合があるであろう。その反面、農村の生徒には物足りない農村の生活の紹介があつたり、都市の生徒には、わかり切つた都市の勤労者の生活が画かれている場合もあることゝ思う。之は現在としては止むを得ないことではあるが、この場合の取扱いはどうしたらよいだろうか。

職業科の指導を昔の歴史や、修身の授業のように、教室で教科書を読んだだけで終つたなら、これ程馬鹿げた指導はないであろう。教科書には何を調べるべきかということが書いてある。生徒はその基準に従つて、自分のまわりにある職業は総べて、自分で調べ、自分で整理し、自分で考えて初めて職業に対する理解がつくのである。また自分で調べることが出来ないような遠方の職場のようすは、矢張り教科書の調査の方法に従つて、参考書をしらべるとか、知つてゐる人から聞くとかして調べ、それを自分のまわりの職業と比較研究するようにすれば、自分で直接見なくとも相当の理解はつくと思ふ。

職業科の教科書は、説明や説教の本としてではなく、生徒が自らなす方法の基準を示したものととして取扱つて、初めてその眞價が分るのである。

## おたよ

将来実社会にでる生徒たちにとつて、職業科ほど大切な教育はないと思えます。職業科をぬきにした社会科など考えられないと思ひます。職業科文庫はその意味で、非常にいい企てだと思ひます。「船をつくる人たち」を見て、この目的がよく達せられてゐると、うれしく思ひました。生徒たちはよくこれをよんで実際に見出すと思ひます。以下、将来の就職についで、よき方針を見出すと手引ともならず、将来をまつています。(兵庫縣××中学校、橋本生)

「職業についての理解」のために

## 職業科文庫を

(6) 船をつくる人たち

定 價 八〇円

(18) 着物をつくる人たち

定 價 八〇円

— 近 刊 — 続々刊行

(3) 製鉄所で働く人たち

(25) 新聞をつくる人たち

機械をつくる人たち

(15) 紙をつくる人たち

發行所

東京都千代田區神田神保町一ノ三九  
第一出版株式會社

電話神田四五七六、二〇一七  
振替東京二三八三八番

# 何を調査すべきか

——職業調査について——

高薄 重夫

まえがき

職業調査は、職業科教育の重要な方法の一つであるが、これを実際に行つてゐる学校は少いように思われる。その原因は、今までの教科課程表で、職業（農・工・商・水産・家庭）となつていたので、職業科はかつての実業科と同様に、單なる技術訓練だけやればよいとの考えが抜けなかつたためである。しかし今度の新しい教科課程表では（ ）がなくなり、実業科でないことがつきりしたのである。

職業科の重要な目標の一つは、生徒が自分で將來の進路を選ぶ能力を養うことにあり、そのためには色々の職業について理解する必要がある。ここに職業を調査する必要がある。では職業調査として何を調べたらよいだろうか。

## 調査項目

- 一、事業所の名称
- 二、事業内容
  - 1、どんな仕事をしているか
  - 2、工場などであれば、製品の種類を調べ、スケッチできるものはスケッチして置く。作業の順序なども調べる。
- 三、従業員数  
総人員。  
男女別。年令別。職種別。
- 四、職種と作業内容。
- 五、職種と心身の適性。  
身長、体重、胸囲、握力、腕力、背の力、足の力、視力、色盲、聴力、嗅覚  
目測、運動速度、動作、手の器用さ、  
容姿、耐久力、性格、言語、知能、事務的能力、
- 六、労働條件
  - (一)、労働時間  
実動時間。始業時間。終業時間
  - (二)、休憩時間  
晝休み。中間休み（午前、午後）  
休日
  - (三)、休日  
日曜、祝祭日、その他
- 七、働く場所  
戸内か戸外か。地上か地下か。  
水上か水中か。狭いか廣いか。  
明るいか暗いか。清潔か不潔か。さわがしいか静かか。換氣はよいか悪いか  
危険であるかないか。じめじめしているか乾いているか。ほこりはたつたかないか。仕事は立つてするか座つてするか。室内の温度は何度くらいか。  
建物はコンクリートか木材か。
- 八、収入
  - (一)、初任給  
日給。月給。男女別。年令別。職種別
  - (二)、従業員の現在の給料  
日給。月給。年俸。男女別。年令別。  
職種別。最高。最低。平均。
- 九、交通費、有無  
交通費が出るならば  
全額か。費用の一部か。費用に關係なし



く一定額か。

十、病氣と災害

職業病、多い災害

十一、作業の安全についての設備

例えば機械の危険、高所作業、有害ガス、爆発、落盤などに対して安全設備がしてあるか

十二、採用条件

(一) 学歴——最低学歴、高等学校大学ならば何科卒がよいか、

(二) 成績(上・中・下) (三) 身体 (四) 性格

(五) 年令(何才から何才まで) (六) 性別

十三、入社詮衝

(一) 時期、定期か不定期か、定期ならば何時頃か。

(二) 試験の方法(筆記 口答 書類)

(三) その内容

(四) 募集の廣告はどうなっているか。

十四、職場での教育訓練

(一) 見習期間があるものは

定期制高等学校または養成所などがあるか。

どんなことを教えられるか。

教育期間はどれだけか。

(二) 見習期間のないものは

最初どんな仕事をするか  
一人前になるまでの期間

十五、季節労働

季節労働の時期と期間。

十六、従業員の勤続年限

(一) 勤続年限別調査

一年未満。一年——五年  
五年——十年。……

(二) 最高 最低 平均

十七、その職業の特色

十八、職階性

十九、昇進停年

昇進——年限、試験、学歴、勤務成績、その他  
停年——何才まで

二十、福利厚生施設

病院、住宅、寄宿舎、菜園、食堂、浴場、消費組合、共済組合、休養施設、文化方面、図書室、雑誌発行、読書会  
講演会、音楽会、ダンス、その他( )

運動方面、野球、卓球、排球、籠球、その他( )

勤続年限、年令、などによつて配給量

二十一、加配米、有 無

勤続年限、年令、などによつて配給量

に差違があるか、

二十二、労働組合

名称。加盟団体名。組織、活動状況。

二十二、その事業の将来性

二十四、事業場の歴史

創立年月日。發展状況。資本系統。

以上は私の実際に行つている、調査項目を記したものであるが、事業所によつて全項目が必要であるわけではない。実際の調査に当つては教師と生徒、或は生徒同志のデスクッションによつて、調査項目を決定すべきである。

(東京都目黒第六中学校教諭)

原稿募集

▽全国の職業科担任の同志の方々から職業教育に関する研究、調査、資料、或は意見、レポートなどを寄せて下さるようお願いいたします。ハガキ通信でも結構です。

▽原稿の場合、枚数に制限はいたしません  
が、できるだけ簡明に願います。掲さいの分には、薄謝を差上げます。

△送り先は

東京都千代田区神田教育会館(中央教復内)職業教育研究会宛





# 職業實習の意義と方法

—— 圖解職業科實習書について ——

雨 宮 茂

四月から教科課程表がかわつた。そのなかで職業科は大きなかわりかたをした。

一、  
今までの教科課程表では、職業（農・工・商・水産・家庭）とされ、職業科では、農業、工業、商業、水産、家庭のうち一科または数科を分科的に取り扱えばよいと考えられた。このため、新しい教科としての職業科は、従前の「実業科」と全く同じに考えられた。

しかも各科毎にコース・オブ・スタデーができた。その「まえがき」をみると職業科が決して従前の高等小学校や乙種実業学校の、「実業科」でないことがわかるが、各科のコース・オブ・スタデーの内容は殆んど実業科的なものであつた。このように職業科が実業科と混乱するようになったについては、文部省官僚のセクト主義的な勢力争いが、その原因である。このことはその間の事情を知る者の等しく認める所だと思ふ。

新しい教科であるはずの職業科は、實際教育では従来の実業科と混同されがちに二カ年間を過ぎたが、今春の教科課程表でこの誤ら

れやすい（農・工・商・水産・家庭）のカッコを取りさり、職業家庭とした。これで課程表の上では、今までの農・工・商・水産は職業一本にまとまつた。そして文部省では、この職業一本の線にそつて、職業科コース・オブ・スタデーの編集にとりかかつている。

二、

職業科の重要な目標の一つは、生徒が自己の將來の進路を選ぶ能力を養うことにありとされている。そのため色々の職業についての理解や職業實習が必要である。

職業實習ということは、昭和三年頃から、高等小学校の職業指導の一方法として取り上げられてきたが、それは主として休暇などに学校外の現場で行う實習をさしていた。その後休暇中の職業實習は高等小学校の重要な行事となつたが、その目的については勤労生活の体験のためだとか、自分の就こうとする職業について適不適を自覚せしめる選職の知識を與えるためだとか、基礎的な技能を修得するためだとか、その時々によつてかわつてきていた。

敗戦後、新学制の発足とともに、中学校の職業科は Vocational

Guidance の中心となるべきものだとの規定とともに、職業実習は職業科の重要な一部門を占めるにいたつた。そして職業実習は試行課程 (Try-out) 又は啓発的経験 (Exploratory-experience) として、学校の内外を問わず実習することをさすようになった。生徒は色々な職業を経験してみることによつて自分がこういう仕事にむくかどうかの適性をおぼろげながら自覚するために実習する。これが職業科の職業実習の目的だとされた。それ故職業科の実習では、農村だから農業ばかりを三カ年間に続けることは、まだどの方向に進むかわからない生徒を、農業という一つの職業に決定づけることになるので、職業科の目標を誤つたものといえる。生徒が自分の適性を自覚するためにも、教師が生徒の適性を発見するためにも、職業実習は色々な職業の基礎となる実習をやつてみなければならぬ。しかしこの場合、ただやつてみる、経験してみる、その結果はロスでもよい、いなロスであれば、適不適がはつきり自覚できるので、トライ・アウトはロスを作るつもりでやれといった考え方があつた。これは日本の現状では許されぬことである。実習は、実用的なものであり、生産と結びつくように指導されなければならぬ。

### 三、

では職業実習としてどのようなことをやつたらよいだろうか。日本では今まで科学的な職務分析が殆んど行われていなかつた。どの作業はどのような性能を必要とし、どの作業をやれば、どの方面の仕事の適不適がわかるかといった、研究が殆んどなされていなかつた。そのため、どのような実習がある職業群の基礎的な技能とし

て typical なものかという職務分析の研究がない。このような事情から、文部省のコース・オブ・スタディーの編集も当然「常識的」とならざるを得まい。そして結局、單元としては栽培、飼育関係、製図関係、事務関係、木工、金工等の手技関係、電気関係、機械関係などの実習を三カ年を通じて、三―四單元以上実習することとなるであろう。このような單元の中で具体的には、どのようなことを作業教材としてえらんだらよいか。その規準となるものは、生徒の希望し好む作業であること、学校の主体的条件に即して、実習可能なものであること、ある職業群に必要な基礎的的技能として typical なものであること、作業が生産技術と関連することなどである。

### 四、

職業科必須の実習は、このような立場から考えなければならぬが、現行の教科書は、このような線に沿つたものではなく、農・工商・水産と「実業科」的に分科したものである。このような教科書は、ある特定の職業を希望する生徒や、進路の一應決定した生徒が選ぶ選択科の職業教科書としては使えても、新しい必須の職業科としては到底使用でき難い。ここに、職業教育研究会が、必須職業科実習のための副読本として「図解職業科実習書」上下二冊を刊行する所以がある。

### 五、

先に検定出願した教科書研究会編職業教科書は必須の職業科が当然以上のように改革されることを予想して、編集されたため、文部省内職業指導協会及び実業教科書から出願されたものが不合格と

なつたのに、唯一の職業教科書として検定をパスし出版を許可されたとのことである。この教科書は二十四年度には間に合わないので四月を期して、ひとまず副読本として発行されるそうだが、紙数の関係から実習の面が非常に不十分である。この不十分さを補うために、この教科書の編集委員の手をわずらわして、教科書と表裏一体をなすものとして刊行されたのが、「図解職業科実習書」である。

この実習書には、上巻には事務的關係として謄寫印刷、製図關係、栽培・飼育關係、下巻には電氣關係、機械關係、木工・金工關係、家庭關係を取り上げ、三カ年を通じ、どれから実習してもよいこととしてある。そしてトライ・アウトの意義から三カ年を通じ出来るだけ多くの單元を履修するため、基礎的技能を中心に取りあげられている。この基礎的な技能を修得することによつて、それを基礎として、色々の作業に發展できるように編集されている。

各実習の最後には、生徒が自己の作業を反省する欄が設けてある。教師は生徒の反省が自己の判断と一致するかどうかと常に検討し、生徒の適性判定に役立てねばならない。例えば道具を使う手の器用さはあつても、製図をかくには不器用な生徒があるだろう。各反省欄の反省事項には、これらの具体的な場合がでてくるので、教師はそれを分析して生徒の適性を判断し、生徒の進路決定に、役立つなければならない。具体的な反省事項を分析してまとめる場合の参考までに、アメリカ労働省編集の職務分析から、従業員に必要な特質表の一部をぬきだしておく。

一、長期にわたつて速く仕事ができる。

二、手、腕、脊、脚の強さ、

手——絞り、曲げ、引つ張り、はさみ、握る等の場合に含ま

れる仕事。

腕——持ち上げ、押し、運び、投げる等の場合に含まれる仕事。  
脊——物を床から持ちあげる、脊と肩でおす場合に含まれる仕事。

脚——ひざの作用で物を持ち上げる、圧力のいるペダル操作などの場合に含まれるもの。

三、指、手、足の器用さ、——速く正確に動かす能力。

四、眼と手の協應——眼で見たところによつて、手の運動を正確に統禦する能力。

五、足と手との眼協應、独立の運動をする両手の協應。

六、物の大きさの目測、数量の目測、動く速さの目測。

七、物の形の知覚。色の弁別。

八、視覚、聴覚の鋭敏さ

九、嗅覚、味覚——強さや性質によつて類似差異を弁別し、再認する能力。

一〇、觸覚の弁別——物の滑らかさや形を指などで弁別する能力。

一一、筋肉感覚の弁別——持ち上げて重量を測つたりするように筋肉感覚に基いて判断する能力。

一二、口答命令、文書命令の記憶。

一三、計算の能力。

一四、計画の能力、決断する能力。

一五、順應性、積極性。

一六、言葉表現、文書表現の能力。

一七、騒音の中で注意を集中する能力。

一八、情意の安全性。

## 入社試験風景

木原 三千夫

入社希望者。東京都内二〇〇名。近隣五〇名。採用人員。四〇名

入社試験は、学業成績と筆記試験、身体検査、口答試問の三者を総合して、合格候補者をきめ、試験官の総合審議で多数決によつて合格者をきめる。

筆記試験——科目は社会、物理化学、國語、数学、英語。社会と國語の成績は、平均してよかつたが、数学、英語はゼロに近い者が多かつた。全般に学校の成績のよい者が合格点を取つていた。

身体検査——レントゲン。血沈、身長、体重、胸囲、耳鼻、眼科。

口答試問——試験官が三名ずつ立合つた。

○ 「君はなぜこの工場を志望したの」

「小さい工場はつぶれると困りますから、大きな工場を志願したのです」

「それは君の考え、それとも先生に教わつたの」

「いいえ、家のおとうさんです」

「おとうさんは、どこにつとめているの」

「A町の釘工場です」

○ 「君は、学校で、職業指導の教科書をならつたの」

「はい」

「で、この工場は、先生に教わつて來たの」

「いいえ、友だちが志願したから、ぼくも志願したのです」

「この工場では、どんな仕事をしているか知つてゐる？」

「……………」(答なし)

○ 「君は電気工になりたいのだね」

「はい」

「電気の仕事が好き？」

「はい、学校でラジオの組み立てや、モーターを作つたりしましたから、そんな仕事がしてみたいのです」

「では、この工場の電気工はどんな仕事をするか知つてゐるの」

「……………」(答なし)

○ 「君は、この工場に入つたら、どんな仕事をしてみたいと思うの」

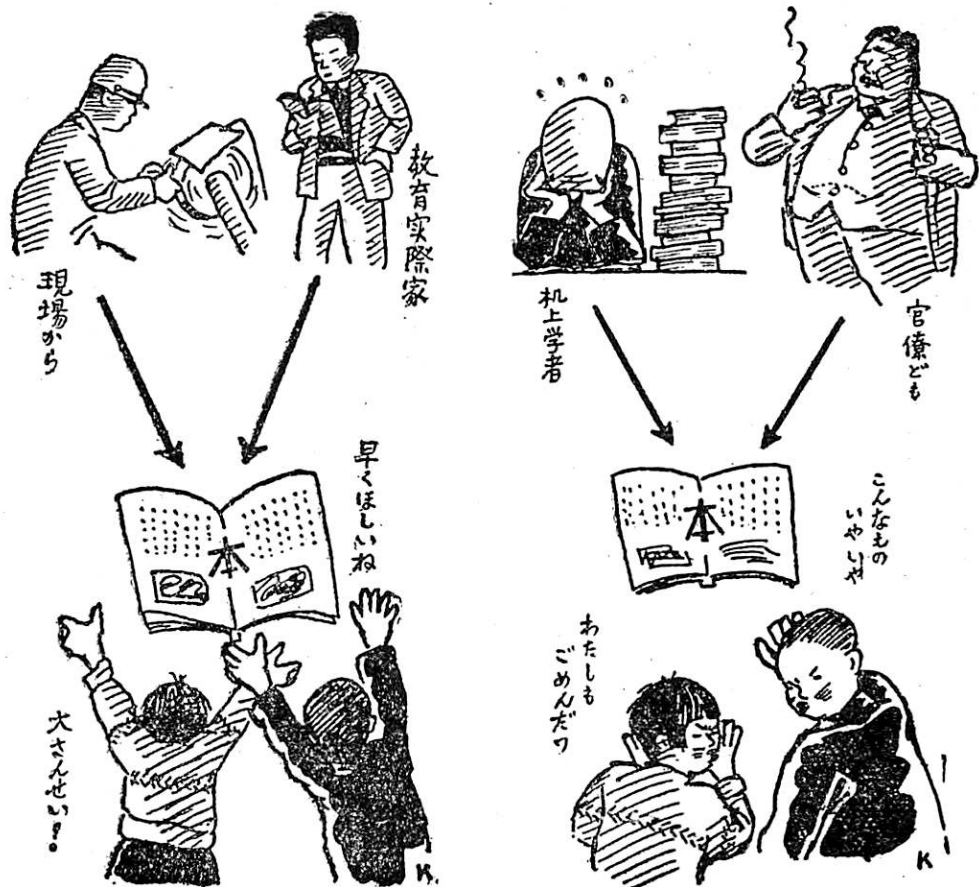
「ぼくは、事務員になりたいと思います」

「君、それは、ちよつと困るね。ここに入ると、君達は工場で機械を作る工員になるのだよ。君は誰かに相談したのかね」

「……………」(答なし)

○ はつきりした志望を持たずに來たものが三分の一。先生の指導によつて來たものが三分の一で、その指導も「この工場に志望しなさい」と言われただけで、この工場がどんなものを作つてゐるか、どんな職種があるかを、よく指導されてきた者は数名に過ぎなかつた。残りの三分の一は、職業安定所の指導で漫然と來た者であつた。志願者の中にはよくこの工場の状況、自己の適性など指導されて來た東京都北多摩の某中学の生徒が一名あつたが、残念ながら体格が十分でなく不合格となつた。

(石川島重工業務課)



## どちらが血となり

### 肉となるてしよう?

教科書といえば文部省のお役人が三、四人で考えて、学者をあつめて、ああでもない、こうでもない、小田原評定で、つくり上げたものを、後生大事と、本を読む前におがませた時代は、とうの昔に、戦争と共にきえたはずです。

子供たちにとつても、教科書といえは、一ばんにが手で、そつ方を向いているのに、いやでもおうでも、その方をむかせようとしたことはなかつたでしょうか。

これからの本は、教科書はもとより、子供によろこばれなくては、血となり肉となるはずはありません。それには、現場に仕入れた、いきいきとした材料をもとに、子供に常に接している先生によつて、作られたものが、ぜつたいによいといえます。

新しい検定教科書制度ができたのも、この精神に外ならないことを、連合軍当局は、くりかえし警告しています。職業教科書として、ただ一つパスした教科書編集陣が、つくつた「職業文庫」は、全く面目を一新したものの、必ずや学童たちの血となり肉となるでしょう。

## 職業教育研究会規約

- 第一條 本会は学校並に職場における職業の教育指導に関する研究をなすを以て目的とする
- 第二條 前條目的達成のため左の事業を行う。
- 1、職業の調査就職問題の研究。
  - 2、学生生徒及び養成工への職業指導並に教育。
  - 3、職業教育に関する講習会・研究会。
  - 4、機関誌その他の出版。
  - 5、職場見学の指導あつせん。
  - 6、その他必要な事業。
- 第三條 本会に左の役員をおき会務を処理する。
- 第四條 幹事若干名（中、幹事長、副幹事長各一名）必要により顧問をおくことを得る。
- 第五條 前條役員は總會において選出し任期は一カ年とする。但し再選をさまたげない。幹事長、副幹事長は幹事会の互選とする。
- 第六條 毎年一回以上總會を開き 事業・会計報告をなし方針の審議をする。
- 第七條 必要により臨時總會を聞く。
- 第八條 幹事会は随時幹事長招集し会務を遂行し、必要により専門部を置くことができる。
- 第九條 本研究会は随時幹事長招集し会務を遂行し、必要により専門部を置くことができる。
- 第十條 本会の経費は会費・事業収入・寄附等によつてまかなう。
- 第十一條 本研究会の事務所は当分の間東京都千代田区神田教育会館中央教復内におく。
- 第十二條 本規約の改正は總會の承認を要する。

### 編集だより

▽巷には行政整理の嵐で、失業者がますますふえて行く。不安は、國民の頭の上を、黒雲のようにおうている。

▽教育のむずかしさは、日々増してゆくわけである。この中でこそ、職業教育が眞剣に考えられねばならない。それは、幼い生徒たちに、着実な自信と明るさを與えることでもある。

▽ここに、職業と教育の創刊された意義がある。貧弱なものながら、職業科文庫の仕事と共に声をあげた小誌を、全國同志諸兄弟によつて育ててもらいたい。

▽あまねく貴重なる研究を寄せられるよう、編集子は、首を長くしてまつている。

昭和二十四年五月二十日発行（定價二十圓）

編集者 東京都千代田区神田（教育会館）  
中央教復内 職業教育研究会

発行者 代表 清 原 道 壽

發賣所 東京都千代田区神田神保町  
第一出版株式會社

中央教復内・職業教育研究會編

# 職業科文庫

全五十冊

總目録 (遂次刊行・順序不同)

- 1 鉱山で働く人たち
- 2 石油を掘る人たち
- 3 製鉄所で働く人たち (近刊)
- 4 電気をおこす人たち
- 5 機械をつくる人たち (近刊)
- 6 船をつくる人たち (既刊)
- 7 自動車ができるまで
- 8 自轉車ができるまで
- 9 時計と蓄音機
- 10 ラジオと放送
- 11 電球ができるまで
- 12 いものの工場
- 13 眼がねをつくる人たち
- 14 化学肥料をつくる人たち
- 15 紙をつくる人たち (近刊)
- 16 石けんをつくる人たち
- 17 くすりと化しよう品

- 18 着物が出来るまで (既刊)
- 19 皮革品をつくる人たち
- 20 樂器をつくる人たち
- 21 文具とおもちや
- 22 菓子をつくる工場
- 23 食料品をつくる人たち
- 24 印刷製本のしごと
- 25 新聞をつくる人たち
- 26 たばこをつくる人たち (近刊)
- 27 手工業の人たち
- 28 せとものとぬりもの
- 29 土木で働く人たち
- 30 家ができるまで
- 31 鉄道で働く人たち
- 32 通信業の人たち
- 33 農家の人たち (制度篇)
- 34 農家の人たち (實際篇)

- 35 果樹と牧畜のしごと
- 36 炭やきと林業
- 37 海で働く人たち
- 38 映画をつくる人たち (近刊)
- 39 銀行と保險のしごと
- 40 小賣店と百貨店
- 41 公務員の人たち (刊近)
- 42 自由業の人たち
- 43 サービス業の人たち
- 44 職業の歴史
- 45 労働組合と失業の話
- 46 労働者の保護
- 47 賃金のはなし
- 48 働く人の健康
- 49 働く人の文化と教養
- 50 学校と職業 (進学の手引)

別冊 圖解職業科實習書(上、下) 既刊各九十圖

東京都千代田區神田神保町一ノ三九  
發行所 第一出版株式會社

電話神田四五七六、二〇一七  
振替東京二三八三八番



日教細教育部・文化部・中央教復推薦

職業教育研究會編

# 職業科文庫

全50卷・別冊2卷

新らしい日本を再建する時に當つて、職業科教育が占める地位は、社会科と共に、極めて重要となつて來ました。産業の復興が、日本再建に絶対欠くことのできない條件であることを思えば、職業科教育は、生きた社会の理解の上からも、そこに入つて行く青少年のための予備知識を與える上からも、教育上必要不可欠の條件とならざるを得ないでしょう。

従來、わが國でも、微々たる形で、文部當局を中心とする「職業指導」なるものが、唱導されてきましたが、それは、現実社会や実地の職場の上に立たない、單なる觀念的指導にすぎませんでした。これでは、もはや新しい日本の教育的要求に添い得ないことは一切の旧來の教育と同様であります。今後の職業科教育は、新しい社会科の教育と同じように、全然観点を新にして、一層實際的な効果ある方途と、その推進をはかることの必要にせまられています。

こうした見地に立つて、今後の日本産業復興に必要な、そして生徒の就職すべき全産業にわたつて、現場のエキスパートの筆になり或いは現場よりの資料に基いて、その産業の歴史、社会との関係、生産工程、従業員的生活等各方面について、いきいきとした実態を、平易で興味深き読物として、学童に與えるために企画されたのが、この職業科文庫であります。

職業科教科書の單元のみでなく、他の産業についても、よりくわしく、面白く表現され、かつ職場と、教育の實際家によつて、編集された本文庫は、他の学習副読本、文庫類と全然趣を異にし、職業科教育と社会科教育に、多くの効果をもたらすものであると信じます。何卒御採用御申込の程お願い申します。